

資料編

1 策定経過

▶ 令和5年度(2023年度)

実施日	事 項	内 容
令和5年7月6日	富岡町の未来を考えるワークショップ (ブレ、富岡町) 16名	
令和5年7月25日	富岡町の未来を考えるワークショップ (第1回、富岡町) 20名	
令和5年8月2日	富岡町の未来を考えるワークショップ (第2回、オンライン) 16名	
令和5年8月4日	富岡町の未来を考えるワークショップ (第3回、郡山市) 17名	
令和5年9月2日	富岡町の未来を考えるワークショップ (第4回、富岡町) 14名	
令和5年9月22日	富岡町の未来を考えるワークショップ (第5回、いわき市) 15名	
令和5年10月4日	富岡町の未来を考えるワークショップ (第6回、富岡町) 18名	
令和5年10月16日	富岡町の未来を考えるワークショップ (第7回、富岡中学生) 21名	
令和5年10月16日	富岡町の未来を考えるワークショップ (第8回、富岡町) 28名	
令和5年10月20日	富岡町の未来を考えるワークショップ (第9回、オンライン) 8名	
令和5年11月21日	富岡町災害復興計画(第三次) 策定に係る骨子案検討委員会(第1回)	・計画の基本的な考え方
令和6年1月19日	富岡町災害復興計画(第三次) 策定に係る骨子案検討委員会(第2回)	・骨子素案について
令和6年2月8日	富岡町災害復興計画(第三次) 策定に係る骨子案検討委員会(第3回)	・まちづくりの考え方
令和6年3月12日	富岡町災害復興計画(第三次) 策定に係る骨子案検討委員会(第4回)	・骨子素案の確認(答申)

▶ 令和6年度(2024年度)

実施日	事 項	内 容
令和6年4月30日	富岡町行政区長会への説明	・ 骨子案について
令和6年5月22日	富岡町災害復興計画(第三次)政策化会議(第1回)	・ 議長、副議長の選任 ・ 基本計画の検討に関する基本事項の説明等
令和6年5月23日	富岡町議会全員協議会	・ 骨子案について
令和6年5月28日	富岡町総合開発審議会	・ 骨子について
令和6年6月26日	富岡町災害復興計画(第三次)政策化会議(第2回)	・ 基本方針(テーマ)別で10年後に目指す姿について
令和6年7月31日	富岡町災害復興計画(第三次)政策化会議(第3回)	・ 施策及び施策のアイデア(取り組み)について
令和6年8月27日	富岡町災害復興計画(第三次)政策化会議(第4回)	・ 政策や施策について ・ 重点政策について
令和6年10月17日	富岡町災害復興計画(第三次)政策化会議(第5回)	・ 政策や施策について ・ 重点政策について
令和6年11月26日	富岡町災害復興計画(第三次)策定に係る骨子案検討委員会委員への進捗状況説明会	・ 計画素案について
令和6年12月13日	全員協議会	・ 計画素案について
令和7年1月15日～令和7年1月31日	富岡町災害復興計画(第三次)に係るパブリックコメント	・ 計画素案に関する意見聴取
令和7年1月30日	富岡町災害復興計画(第三次)政策化会議(第6回)	・ 計画素案について
令和7年2月14日	富岡町災害復興計画(第三次)政策化会議(第7回)	・ 計画案について(答申)
令和7年2月18日	復興推進会議(庁議)	・ 計画案について
令和7年2月19日	富岡町総合開発審議会	・ 計画案について(諮問・答申)
令和7年3月7日	富岡町議会全員協議会	・ 計画案について
令和7年3月12日	3月定例会	・ 計画案について

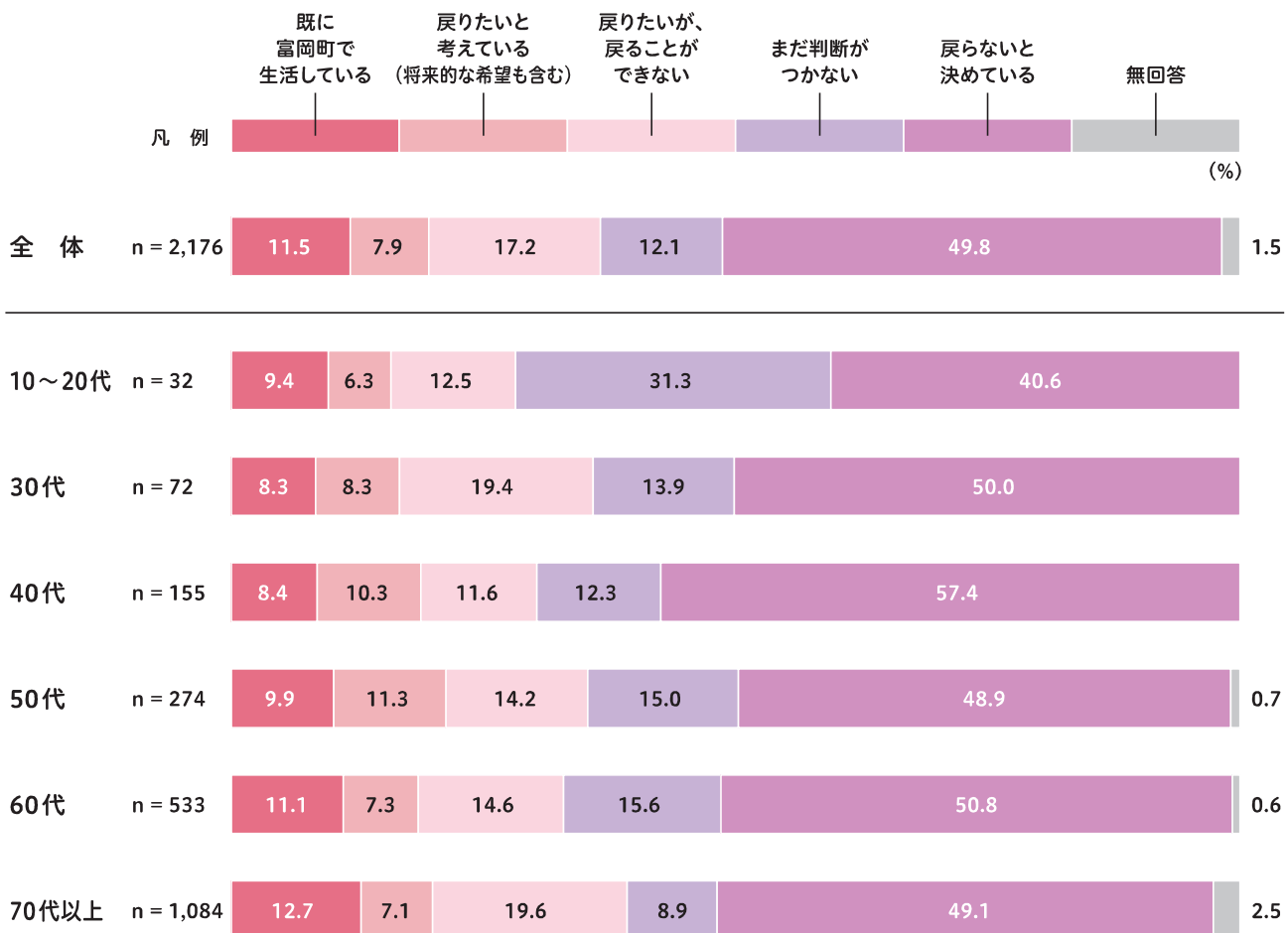
2 計画策定における町民参画の取組状況

▶ 住民意向調査

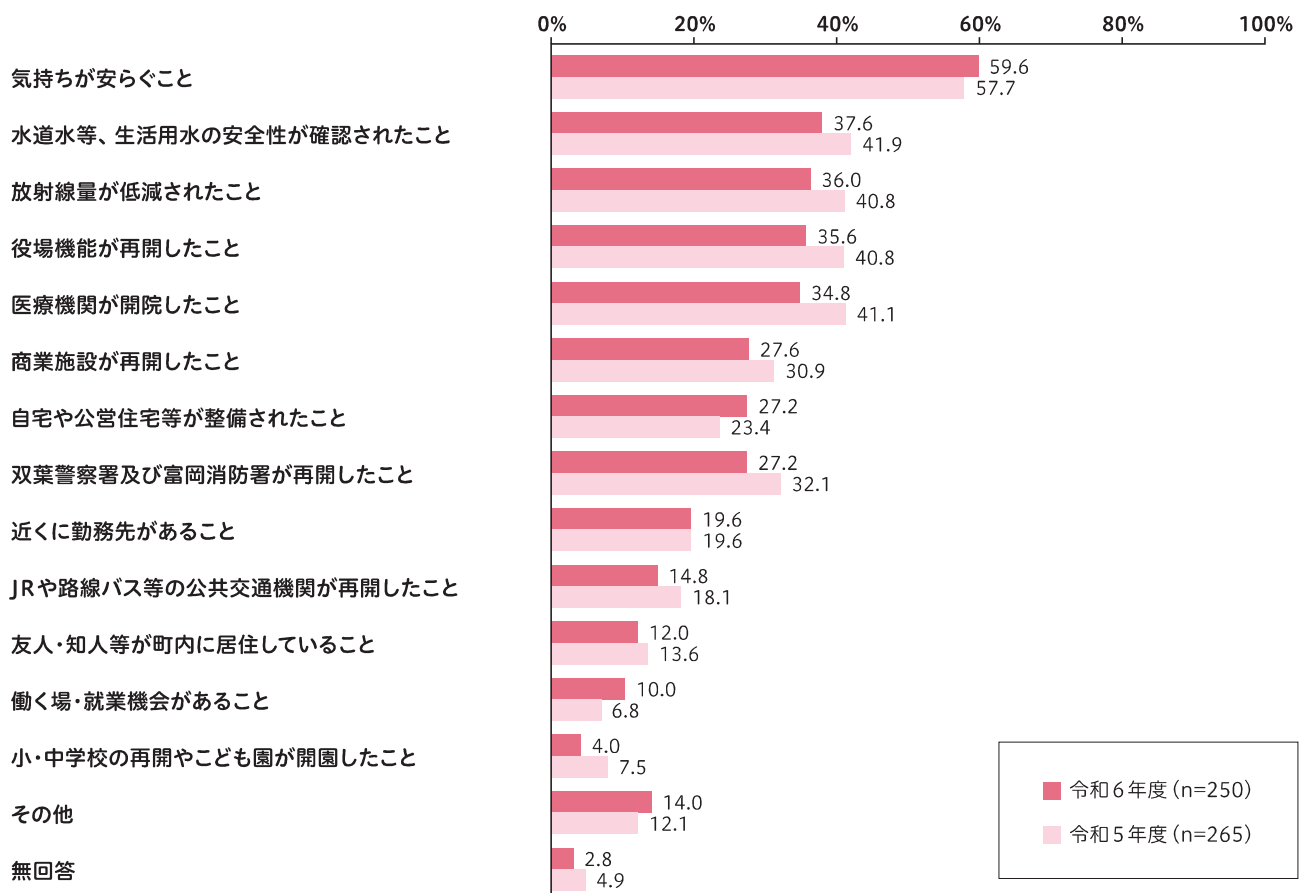
● 複合災害による避難者等に対する住民意向調査について、富岡町、福島県及び復興庁の共同で実施しました。

実施主体	富岡町、福島県、復興庁
調査対象	世帯の代表者(5,829世帯)
調査方法	郵送及びWEBによるアンケート方式
実施期間	令和6(2024)年9月2日～9月23日
主な調査項目	●現在の状況(現在の居住の状況(居住場所、居住形態)) ●将来の意向(帰還に関する意向、住居に関する希望 他)
回答者数	2,176世帯(回収率37.3%)

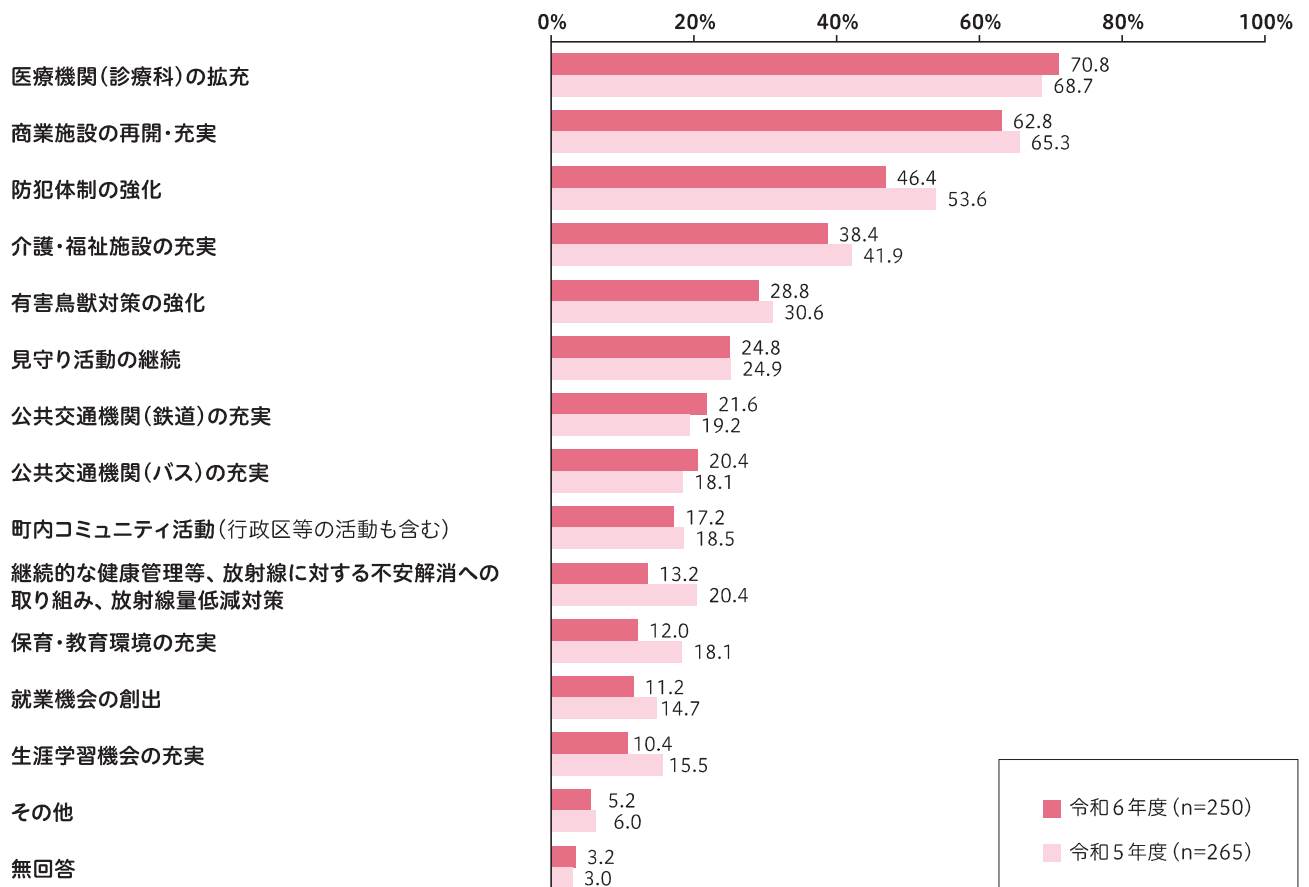
富岡町への帰還意向



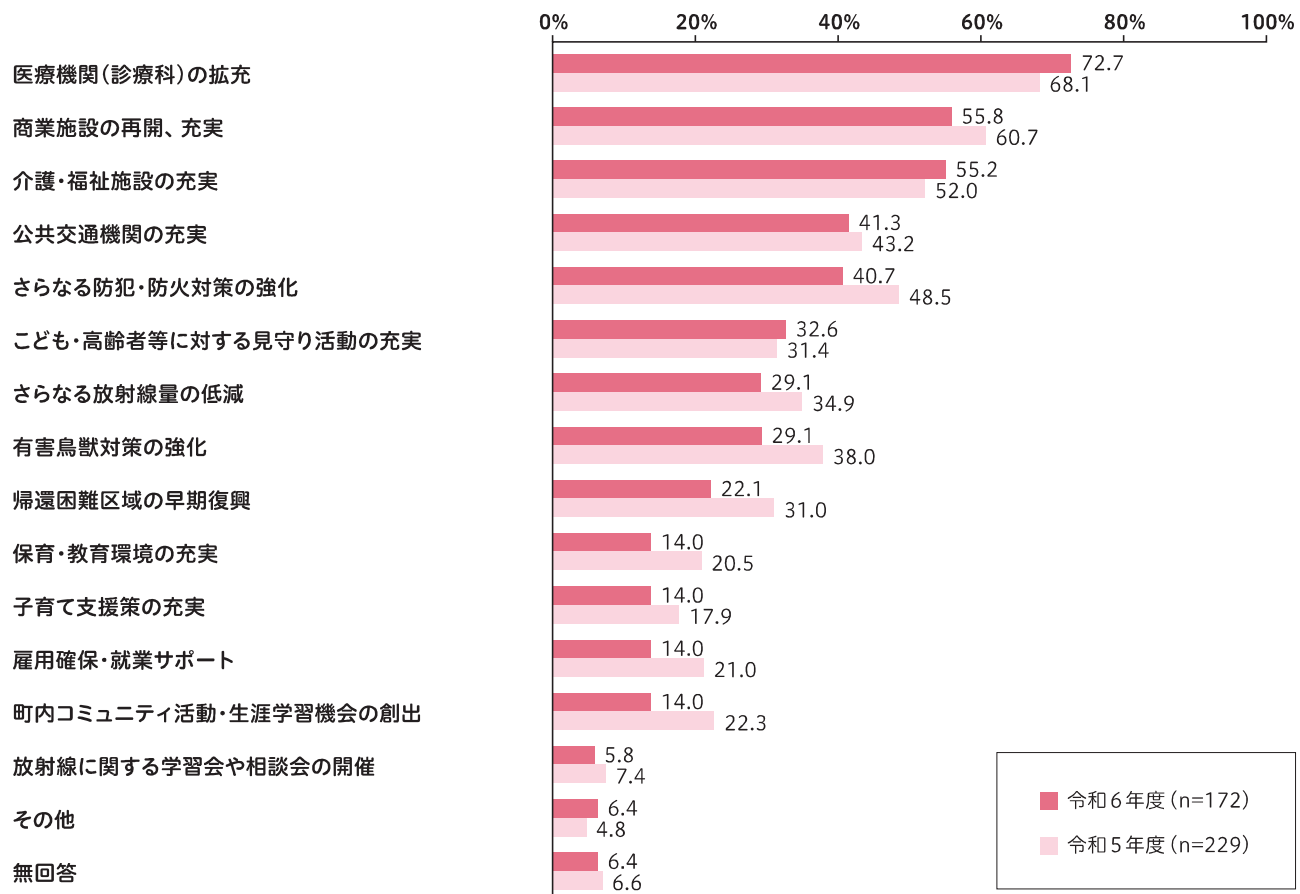
富岡町への帰還を決めた理由



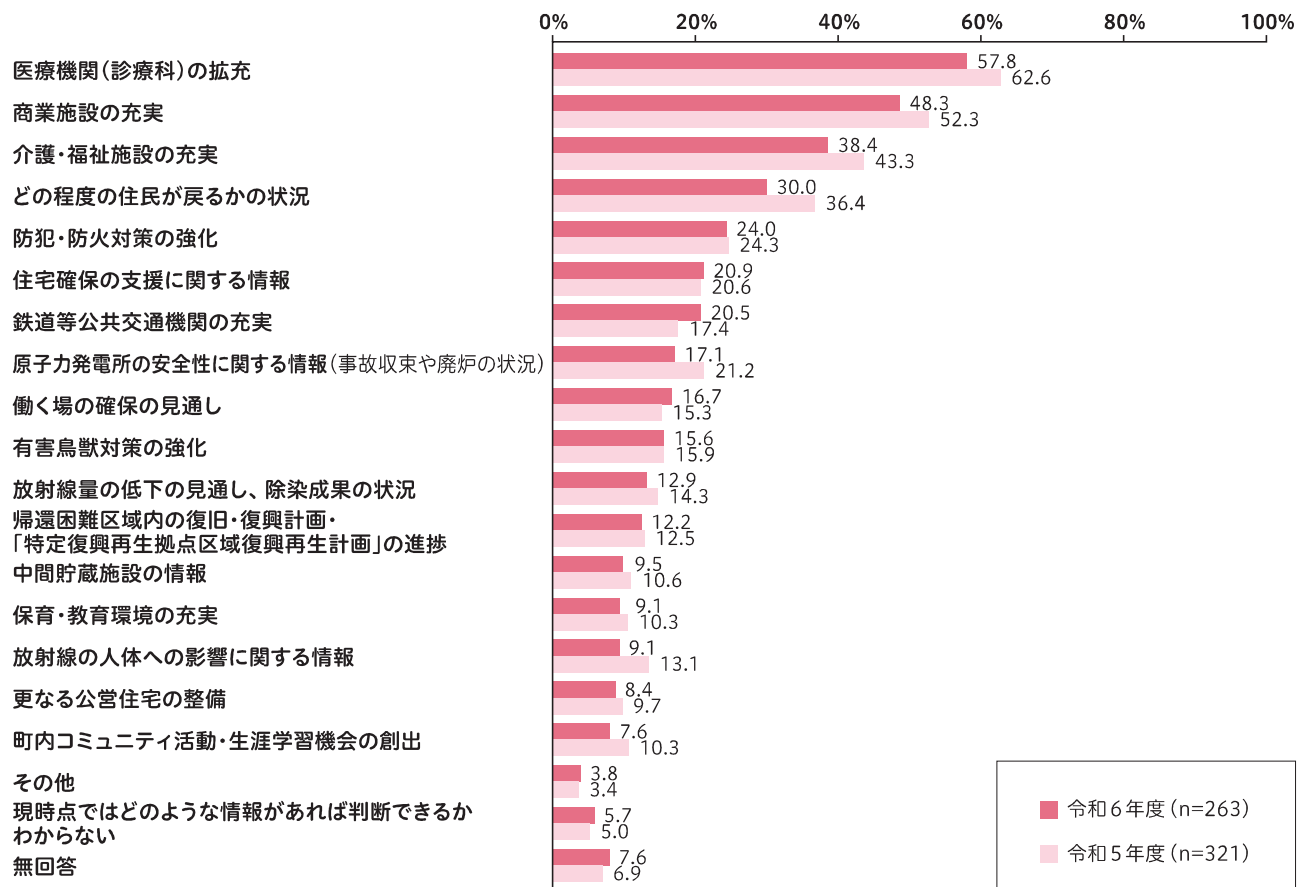
富岡町内での今後の生活において必要だと感じていること



富岡町へ帰還する場合に必要な施策



富岡町への帰還を判断するために必要なこと



▶ パブリックコメント

実施概要

- 計画素案について、町民が内容を確認するとともに、さらなるご意見を聴取するために、パブリックコメントを実施しました。

実 施 期 間	令和7(2025)年1月15日(水)～1月31日(金)
対 象 者	7,081人(広報紙発行世帯主及び住民意向調査対象世帯)
意見提出方法	窓口に持参、郵送、WEBのいずれかの手法で提出

結果概要

- パブリックコメントへの回答者の総数は120名、意見の総数は283件になりました。
- いただいたご意見の概要とそれに対する町の考え方については、町のホームページにて公表しています。

提出方法別

	回答人数
郵送・窓口持参	98人
WEB	22人
総 数	120人

意見の内訳別

	意見の数
提 案	46件
要 望	192件
質 問	6件
そ の 他	39件
総 数	283件

▶ 富岡町の未来を考えるワークショップ

実施概要

- 計画の策定にあたり、町に関わる様々な方から、町に対する思いや声を幅広くいただくために、「富岡町の未来を考えるワークショップ」を開催しました。
- 計10回、累計180名の方に参加していただきました。

開催日	事 項	実施場所	参加者数
令和5年7月6日	プレワークショップ	富岡町	16名
令和5年7月25日	第1回ワークショップ	富岡町	20名
令和5年8月2日	第2回ワークショップ	オンライン	16名
令和5年8月4日	第3回ワークショップ	郡山市	17名
令和5年9月2日	第4回ワークショップ	富岡町	14名
令和5年9月22日	第5回ワークショップ	いわき市	15名
令和5年10月4日	第6回ワークショップ	富岡町	18名
令和5年10月16日	第7回ワークショップ	富岡中学校	21名
令和5年10月16日	第8回ワークショップ	富岡町	28名
令和5年10月20日	第9回ワークショップ	オンライン	8名

進め方

- 当日は、4～6人の参加者で班を編成し、「まちづくりデザインマップ」を活用し、町の課題・問題を出し合い、その上で、解決する方策・アイデアを出し合いました。

考えてほしいことを示して、ワークに入ります

“大切にしたい”があふれる暮らしを富岡で

福島県富岡町。未曾有の災害に遭い、まちとひとは大きな悲しみを経験しました。

その町でいま紡がれているのは、自分の暮らしをかたちづくるものへの感謝にあふれ、ありふれた日々にも、よろこび・楽しみを見出す暮らしです。

ひと、そして土地とのつながりを尊さを知ったから。目の前の暮らしが、有難いものと知ったから。

“大切にしたい”に気づき、それに向き合うみんなの暮らしが折り重なる、この町で大切にしたいひと、大切にしたい風景、大切にしたい時間に気づく瞬間があなたにもきっと訪れます。

“大切にしたい”があふれる日々は、あなたの人生に豊かな彩りを添えるでしょう。

あなたが“大切にしたい”富岡はなんですか？

“大切にしたい”富岡を自分たちでデザインする

(1)
あだ名札
づくり

今日呼んでほしいあだ名をつけて、卓上のA4用紙で名札をつくる！

(2)
とみおカード
づくり

「富岡のいいところ」や「富岡の好きなところ」を卓上の六角形のカードに書く！

(3)
自己紹介

(1)と(2)を使って、自己紹介する！

①
問題を
見つける！

②
問題を
まとめる！

③
解決策を
考える！

④
解決策を
まとめる！

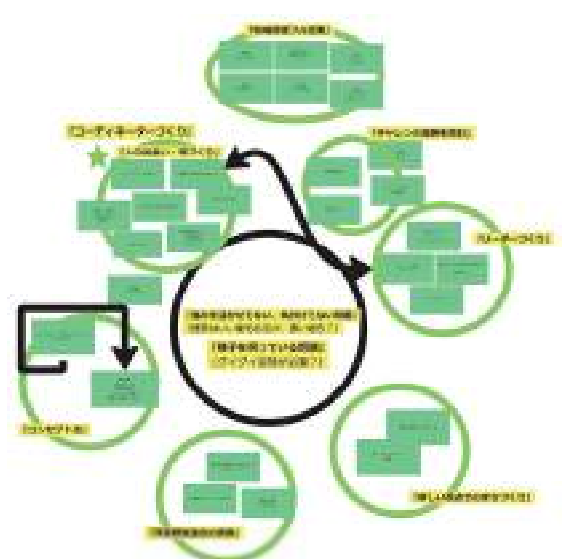
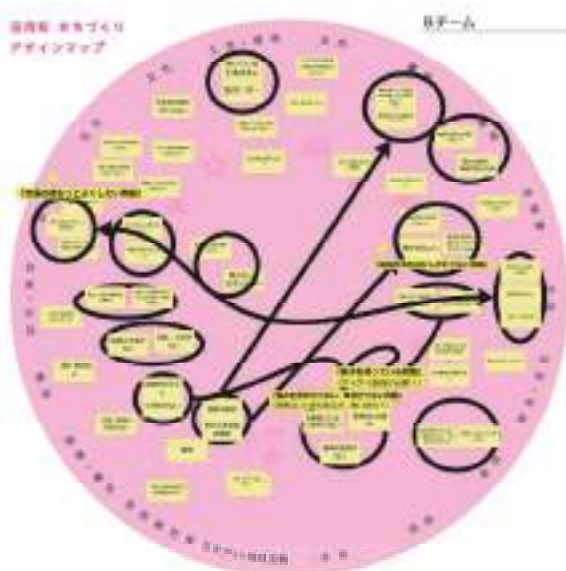


出口にメッセージ用の桜の木を貼り、あなたが思う“これからの富岡町のありたい姿”についてメッセージをいただきました。

課題・問題をデザインマップにたくさん出し
その中で重要な問題をピックアップする



その課題を解決する方策・アイデアを出し合い、
似たようなアイデアをまとめる



町民・民生委員

1 みんなの遊び場がない、住みやすさが弱い という課題

解決策

- 多様な遊び場、集まれる場を整備
- 町内を動きやすい交通システム、学べる場が必要
- 商店街やイベントを生み、住みやすい、働きやすい、つながりやすい仕組みづくり

キャッチコピー 商店街に町の道を、海から山へと続く道を

2 (今は人が少なく) 人が来る・来られる理由が必要 という課題

解決策

- 観光資源を増やす、作る
- 飲食施設を充実させる
- 積極的なPRを展開する
- 住みやすさをアピール
- 会いたい人がたくさんいる

3 生活できるけれど物足りない、人が少ない という課題

解決策

- 暮らしを少し豊か、彩をつくるために、商業施設の充実、桜以外の自然との関わり
- 「海」を活かしたトップエンドの観光施設、教育機関、別荘地
- 海・星を活かした観光開発
- 親への支援ではなくこどもへの教育支援(特別な授業、学び)

4 抛り所問題 働く男の町のイメージが強く、観光、商業、教育など多様な人々の抛り所がない という課題

解決策

- 物質的なものではない体験価値の拡充(林間学校、自然の家)
- 働く男イメージから、アート、海・自然を生かした生活への変化
- 多様な企業の受入れ

5 コミュニティの場がない、居場所がない、子育てが難しい という課題

解決策

- 世代、仕事場以外の多様な形態がつながれるコミュニティセンターのような場づくり
- こどもから大人までゆったりのにんびり集える過ごせる場・施設づくり
- 子育てのコミュニティ、パパサポートコミュニティ、制度の強化とコミュニティ活動の運営

キャッチコピー ゆったり、のんびり富岡

6 暮らしている人にとって「抛り所」がない という課題

解決策

- 子育て世代が交流できる拠点
- 仲間づくりのコミュニティ、喫茶店、バー

キャッチコピー わくわく! ランドとみおか

7 空き地が多い、集まる場所が弱い、子育ての環境が弱い。全体的には、つながりが弱い という課題

解決策

- 町民が大切にするもの=「海・川・桜」を活用したつながりづくり
- つながるきっかけとしての「場所」づくり、情報発信での富岡PR

8 人が少ない という課題

解決策

- すべては人を増やすことが解決策
- 人が少なく空き地が多いことを強みにして、「医療」や「科学」の実験的都市に
- 実験的都市を強みにして産業、商業、観光へとつなげる

キャッチコピー 「実験フィールド」とみおか

9 町を明るくしたい(物理的、心理的) という課題

解決策

- エンタメ施設・ショップの誘致。観光、集客の拠点づくり
- 街並みを整備し町の美しさを作る
- 人のやさしさをアピールできるようにする
- 桜、花、緑、紅葉といった季節の色・彩を感じる町に
- 先行きが安心できるようなメッセージの発信

キャッチコピー みんなが主役、エンタメの町

10 何か足りない、欲求不満を抱える、人が集まらない という課題

解決策

- 町中にもっと灯りを
- 富岡にしかない観光の魅力づくり桜・海・人
- とみっぴーのキャラクターパーク
- スポーツの大イベントの誘致(施設はある)
- 空き地を使って企業誘致、キャンプ場整備、ゴルフ場の復活
- 経営支援の町にする
- これらの政策で人が来なくなる町になる

キャッチコピー とみおかオンリー、人が来なくなる町になる

11 多様な暮らしにこたえられる環境になっていない という課題

解決策

- 教育、こどもを中心に据えたまちづくり
- つながるを作る仕組み、場づくり
- 老若男女が集える場づくり
- イベントスペース、コワーキングスペース、チャレンジショップといったにぎわいと交流の場づくり、それを支える行政

キャッチコピー

多様なコミュニティから生まれるにぎわい
町民が作るにぎわいが、ひとを惹きつける

12 子育て環境が良くない、ファミリーインフラの不足 という課題

解決策

- 人のやさしさ、良さという富岡の良さを生かす工夫が必要
- 学習塾の開設
- 高等専門学校で大学まで富岡で
- こどもの能力開発のためのタレント塾
- 産婦人科、小児科
- こどもが活かせる補助金制度
(教育事業者対象、返済免除型奨学金)

キャッチコピー

こどものつながりは親のつながり

学べる相談できる富岡

家族にやさしいファミリーインフラが整っている町、富岡

13 おもてなしが足りない。人が増えるにはモノ・コトが必要 という課題

解決策

- 富岡人の心、町人会を結成、町民運動会開催で富岡の魂を復活させる集まり、交流できる施設(リフレ、温泉、釣り場、食堂)、おもてなしPR
- グルメ商店街
- イベントでの誘客、おもてなし活動への助成金制度の導入
- 特産品でおもてなし

14 交流が十分にできない という課題

解決策

- 道の駅・交流施設を作る、グルメショップ、グルメイベント
- 野菜直売所、玉ねぎの特産品開発
- 名物の漬物・キムチの開発

キャッチコピー

地元の幸を食べられて、温泉がある、道の駅

15 集まる場所や、集まる場面がほしい! という課題

解決策

- 伝統行事、文化的行事、食をしっかり継承する
- イベントの情報発信、一方で自然環境の保全

16 人が少ない、町に寂しさを感じる という課題

解決策

- 人が起点で、帰ってくる・新しく来る・関わり続ける
- 町民にフォーカスしたイベントの展開
- にぎわいづくり、起業者を増やす
- 町民同士の交流の場づくり

17 町の風景(荒れた)、にぎわい交流が少ない という課題

解決策

- 富岡町の美化活動を展開
- 「トミ美化ツアー」草刈り→花植え→収穫のサイクルのなかで、草刈りボランティア、語り部とのツアー、収穫ツアーを展開する
- 移住者同士、こども同士の交流の場づくり
- 外国人や留学生へのサポート制度

キャッチコピー

富岡をピカッと美化する

移住者も帰住者もみんなで「とみびかツアー」

郡山・いわき

1 空き地が多い、誰を移住させるか・誰に住んでもらうか という課題

解決策

- 富岡に住んでいた方、その子、その孫が戻ってきて住めるようなサポート策「関係者移住」
- マイホーム取得補助制度、大型ショッピングセンターの誘致
- 大人からこどもまで楽しめる遊び場

2 暮らしている人にとって「拠り所」がない という課題

解決策

- 子育て世代が交流できる拠点。
- 仲間づくりのコミュニティ、喫茶店、バー

キャッチコピー

わくわく! ランドとみおか

3 帰ってくる環境になっていない という課題

解決策

- 町おこし、特産品開発
- 買い物を楽しめる施設
- 大人もこどもも遊べる場を作る
- 税制面でのサポート(低減策、無償策)、富岡-郡山間の高速道路無料化

キャッチコピー

富岡に全員集合

富岡中学校生徒

1 もっといろいろ遊びたい。もっとしっかり勉強したいという課題

解決策

- 家庭教師、塾がほしい
- 買い物ができ、遊び場となるような、大規模ショッピングモール
- 海や空き地でもっとイベントを行ってほしい
- アスレチック、バスケットボールコート、24時間のお店
- 道の駅、ゲームセンター

キャッチコピー 勉強もできて、遊べる場所を作る！

2 町がちょっと汚れているという課題

解決策

- マイナスをプラスにする活動（町民みんなでゴミ拾い、みんなで草刈り）、空き家の有効活用
- さらにプラスにする活動
- アートのある街並み、音楽の鳴る道、花を増やす、空き家にスタバ、パン屋、ケーキ屋を持ってくる
- 歩道をきれいにし、新しいスーパーの誘致

キャッチコピー 華やかな富岡づくり

3 僕らの集まる場所がないという課題

解決策

- 商業施設の充実（イオンモールのような規模）、24時間のお店、学生割の利くお店
- 道路の充実（リニア交通、道の駅、郡山-富岡路線）、街灯、商店街、イルミネーション、歩道をきれいにし

4 富岡町をどうやったらにぎわう場所になるのかという課題

解決策

- 町を運営する会社を興し、イベントなどのスポンサーを引っ張ってくる。そこが町のPRを行う
- 楽しいイベントをたくさん仕掛ける（アクションショー、花火、サーキット、マラソン）
- 観光拠点、特産・名産の開発（星空のきれいな町、ラクダに乗れる、ジンギスカンを名物に、富岡バーガーの開発）

富岡町に関心のある方

1 ふらっといられる場所がないという課題

解決策

- 機能性や新しいことだけではなく自然体でいられる場所、コトが必要（足湯、畳、草原、砂浜）
- はだしでいられるリラックスできる、集える場

2 交通の便が悪い、持っている強みを活かしていない・気づいていないという課題

解決策

- 人を育てる仕組み、チャレンジ精神が活かせる場、地域資源のフル活用
- 町のキャッチコピー化
- 「海」の積極活用、社会実験の場としての町
- 人との出会いの場づくり

3 雇用が少ない、桜以外の観光資源が見えないという課題

解決策

- 特区、新たな産業団地、新しいカタチの商店街、チャレンジショップの導入
- 桜を大事にしつつも、春以外の彩「秋の紅葉」の回廊、「海」の活用
- 商業と観光で雇用を拡大させる

4 交通の便の悪さ、みんなの拠り所・集まれる場所がないという課題

解決策

- 外との交通の便より、町内・域内の交通手段の多様化、住む人の集まれる拠点施設
- 来町ポイントシステムの導入による関係人口拡大

5 風評被害という課題

解決策

- 富岡を体験する機会を増やす（多彩なツアー、ドラマロケ誘致、お花見大会）
- 情報発信（ネット、SNS、インフルエンサー招聘）、特産品物産の開発と首都圏での販売

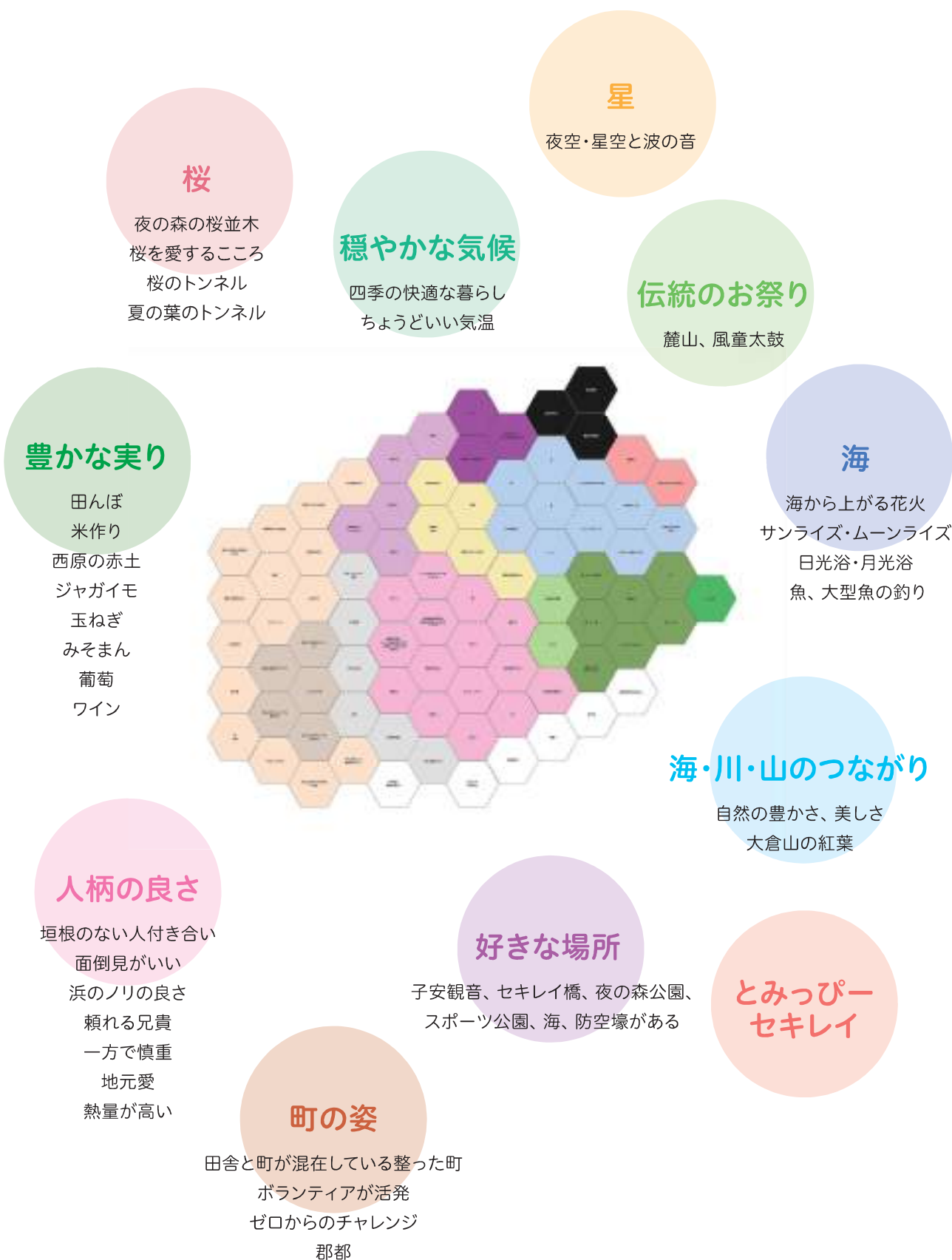
6 交通の便が悪いことが人の交流を妨げているという課題

解決策

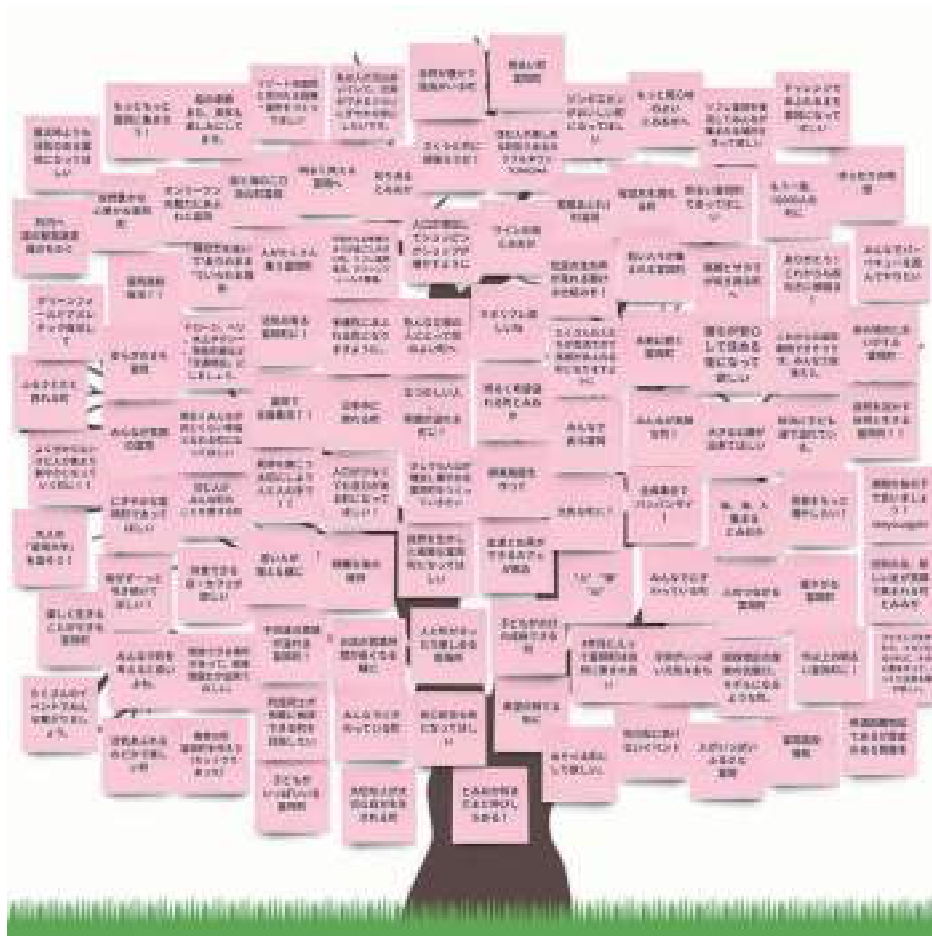
- 利便性ばかりを求めるのではなく、不便さが持つ余白が人を集める可能性につながる
- レンタル交通機関（サイクル、キックボード、カーシェア、バイク）、デマンドバス、無人バス
- 交通機関自体がエンタメになっている町（無人バス、キャラクターバス）町民の車が皆装飾されている）、オープンバス、トゥクトゥクが走る町、バス停のない町（乗り降り自由）

キャッチコピー 交通が交流を生む。交通のエンタメ化

富岡の好きなところ、いいところ、強みをカード化



“これからの富岡町のありたい姿” メッセージの寄せ書き



自分なりの生き方を作れる町

- みんなで作る町
 - ➡ みんなで創意工夫を、生の声が聞こえる町
- みんなが楽しい町
 - ➡ 住む人が楽しめる町、彩のある町、カラフルタウン。多様性あふれる町
- みんなが笑顔の町
 - ➡ みんなが笑顔、たくさんの笑顔、笑顔があふれている

自分らしくいられる町

- 居心地がいい町
 - ➡ まったり楽しめる町、肩の力を抜いていい町、もっと居心地がいい町に
- みんなが好きな町
 - ➡ 住む人が町を愛している、町民同士のコミュニケーションがいい町

こどもが学び育つ町

- 教育の町
 - ➡ 教育の町を創ろう、大人も学べる大学を、休校中の高校の再開
- こどもにいい町
 - ➡ こどもがたくさんいる町、こどもの笑顔にあふれている町、こどもが生き生きしている町

新旧入り混じり、人が集まる町

- 再び集まる
 - ➡ 懐かしい人に会える、全員集合で万々歳、人がつながる、リフレの復活
- 人が集まる
 - ➡ 人が集まってくる町へ、いろんな人が集う町、桜・海・人が集まる富岡

未来に前向きな町

- ポジティブな町
 - ➡ これからできそうなことをみんなで考えよう、期待が持てる町に、私は頑張る
- チャレンジングな町
 - ➡ 日本中に誇れる町富岡、ワインの里富岡、未来に続く富岡

普通に楽しめる町

- 若者の町
 - ➡ 若い人がもっともっと増えますように。若い人を増やしたい
- 娯楽のある町
 - ➡ 友達とカフェで会話している、外食ができるカフェ、お店、人が増えてショッピングが楽しめる町に、店の営業時間が長くなってほしい
- 賑やかな町
 - ➡ 活力がある町、にぎやかな富岡を、元気な町に

自然と共生する町

- 桜の町
 - ➡ 桜と笑顔があふれる町。桜がずっと咲き続けますように、桜の下でまた会いましょう
- 自然を活かす町
 - ➡ 桜と海の二刀流の町、きれいな海を資産に、自然が生きる・自然と生きる富岡の資源を活かす、人の手で守る

独立したメッセージ

- ドローン、ヘリ、無人タクシーなどを活かした交通先進タウンに
- 誰もが安心して住める

3 計画策定にかかる各種会議等の概要

▶ 富岡町災害復興計画(第三次)策定に係る骨子案検討委員会

- ワークショップの結果を踏まえ、富岡町の将来像やまちづくりのあり方、基本理念・方針について協議しました。
(計4回開催)
- 町民からの公募、第二次計画時の検討委員会(部会長または副部会長)、町内民間団体、役場職員、学識者、有識者、外部アドバイザーなどで構成しました。

開催概要

年 月 日	事 項	内 容
令和5年11月21日	第1回検討委員会	・ 計画の基本的な考え方
令和6年1月19日	第2回検討委員会	・ 骨子素案について
令和6年2月8日	第3回検討委員会	・ まちづくりの考え方
令和6年3月12日	第4回検討委員会	・ 骨子素案の確認(答申)

委員名簿

(敬称略、順不同)

		氏 名	所 属 ※各委員の所属は開催当時のものです。
町民公募	1	菊 地 成 一	
	2	鈴 木 みなみ	
	3	山 本 曉 甫	
	4	吉 田 英 仁	
	5	青 木 淑 子	
	6	高 野 賢 一	
	7	小 貫 和 洋	
	8	高 橋 大 樹	
町民推薦 (第二次計画検討委員)	9	市 村 高 志	生活支援部会 部会長
	10	遠 藤 義 之	情報発信部会 副部会長
	11	藤 田 大	産業再生・創出部会 副部会長
	12	渡 部 彰 一	心のつながり部会 部会長

(次頁に続く)

		氏 名	所 属 ※各委員の所属は開催当時のものです。
学識者	13	小 沢 喜 仁	福島大学 名誉教授・客員教授(共生システム理工学類)
	14	浦 部 智 義	日本大学 工学部 建築学科 教授
	15	御 手 洗 潤	東北大学 大学院法学研究科 公共法政策専攻 教授
有 識 者	16	宇 佐 神 幸 一	議会 総務文教常任委員会
	17	佐 藤 啓 憲	議会 産業厚生常任委員会
民間団体	18	齋 藤 裕 喜	富岡町商工会 理事
	19	会 田 瞳	富岡町観光協会
	20	鈴 木 文 子	富岡町教育委員会 教育委員
	21	小 坂 竜 也	富岡町農業委員会
	22	猪 狩 早 苗	富岡町社会福祉協議会
	23	千 葉 梅 子	富岡町民生児童委員協議会
	24	松 本 哲 朗	行政区長会
役場職員	25	大 和 田 侑 希	住民課 生活支援係長
	26	工 藤 奈 織 美	健康づくり課 健康づくり係長
	27	堀 川 新 一	福祉課 課長補佐
	28	橋 本 壮 史	税務課 固定資産係長
	29	渡 邉 浩 基	生活環境課 課長補佐
	30	福 島 好 邦	総務課 課長補佐
	31	堀 本 航 生	企画課 広聴広報係長
	32	佐 藤 美 津 浩	産業振興課 課長補佐
	33	駒 田 栄 雄	都市整備課 都市計画係長
	34	猪 狩 恵 大	教育総務課 総務管理係長
	35	三 瓶 秀 文	生涯学習課 課長補佐
	36	藤 田 志 穂	にこにここども園 副園長
	37	志 賀 智 彦	いわき支所 業務係長
	38	原 田 恵 美	郡山支所 総務係長
外部アドバイザー	39	広 畑 義 久	新宿サブナード株式会社 代表取締役社長
	40	鷗 沼 達 郎	デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社

▶ 富岡町災害復興計画(第三次)政策化会議

- 骨子を基に、基本構想の実現のための具体的な政策、施策について、実務的な観点から検討・協議を行いました。
(計7回実施)
- 町内民間団体の代表者、役場職員、学識者、有識者、外部アドバイザーなどで構成しました。

開催概要

年 月 日	事 項	内 容
令和6年5月22日	第1回政策化会議	・ 議長、副議長の選任 ・ 基本計画の検討に関する基本事項の説明等
令和6年6月26日	第2回政策化会議	・ 基本方針(テーマ)別で10年後に目指す姿について
令和6年7月31日	第3回政策化会議	・ 施策及び施策のアイデア(取り組み)について
令和6年8月27日	第4回政策化会議	・ 政策や施策、重点政策について
令和6年10月17日	第5回政策化会議	・ 政策や施策、重点政策について
令和7年1月30日	第6回政策化会議	・ 計画素案について
令和7年2月14日	第7回政策化会議	・ 計画案について(答申)

委員名簿

(敬称略、順不同)

		氏 名	所 属 ※各委員の所属は開催当時のものです。
学識者	1	小 沢 喜 仁	福島大学 名誉教授・客員教授(共生システム理工学類)
	2	浦 部 智 義	日本大学 工学部 建築学科 教授
	3	御 手 洗 潤	東北大学 大学院法学研究科 公共法政策専攻 教授
民間団体	4	嶋 原 弘 昌	富岡町商工会 事務局長
	5	渡 辺 吏	富岡町観光協会 代表理事
	6	鈴 木 文 子	富岡町教育委員会 教育委員
	7	小 坂 竜 也	富岡町農業委員会
	8	吉 成 謙	富岡町社会福祉協議会
	9	横 田 純 子	富岡町民生児童委員協議会
	10	関 根 弘 明	富岡町行政区長会 副会長

(次頁に続く)

		氏 名	所 属 ※各委員の所属は開催当時のものです。
役場職員	11	新 田 善 之	総務課 課長補佐兼管財係長
	12	安 藤 崇	総務課 副主幹兼財政係長
	13	阿 部 祥 久	総務課 主任兼総務係長
	14	福 島 好 邦	税務課 課長補佐
	15	原 田 恵 美	住民課 課長補佐
	16	大 和 田 侑 希	住民課 生活支援係長
	17	坂 本 功 一	福祉課 課長補佐
	18	庄 司 智 幸	福祉課 子育て支援係長
	19	畠 山 祐 美	健康づくり課 課長補佐
	20	工 藤 奈 織 美	健康づくり課 主任兼健康づくり係長
	21	渡 邊 浩 基	生活環境課 主幹
	22	猪 狩 勝 美	生活環境課 課長補佐兼消防交通係長
	23	伊 本 和 明	産業振興課 副主幹兼農業振興係長
	24	駒 田 栄 雄	産業振興課 主任兼農林土木係長
	25	山 口 学	産業振興課 商工観光係長
	26	渡 邊 修 二	都市整備課 課長補佐兼下水道係長
	27	小 松 栄 治	都市整備課 主任兼都市計画係長
	28	植 杉 暁 美	いわき支所 次長
	29	前 田 聖 子	郡山支所 次長
	30	小 西 亮 太	教育総務課 教育管理係長
	31	藤 田 志 穂	にこにここども園 副園長
	32	三 瓶 秀 文	生涯学習課 課長補佐
	33	門 馬 健	生涯学習課 主任兼業務係長
	34	堀 本 航 生	企画課 広聴広報係長
	35	加 藤 慶 一	企画課 電算システム管理係長
有 識 者	36	平 山 勉	議会 総務文教常任委員会
	37	佐 藤 啓 憲	議会 産業厚生常任委員会
外部アドバイザー	38	広 畑 義 久	新宿サブナード株式会社 代表取締役社長
	39	鷄 沼 達 郎	デロイト トーマツ ファイナンシャルアドバイザー合同会社

4 富岡町災害復興計画(第二次)後期レビュー

▶ 実施概要(令和5年度実施)

● 目的

令和2(2020)年3月に策定された「第二次計画後期」の重点施策に基づくすべての事業について達成度を確認するため、その「成果目標の検証」や「事業の有効性」、「事業の進捗」等の事業評価を行いました。

本計画の策定に向け、例年実施している事業評価同様に令和4(2022)年度の事業進捗状況の確認を行うとともに、本計画の策定にあたっての新たな視点やキーワードを収集することも合わせて実施しました。

● 対象事業

政策1 町とつながり続ける環境の充実(22事業)

取組み方針

- 富岡で生まれ育ったことを誇りに、どこにいても“ふるさと”とつながる仕組みづくりを行います。
- 町内で安心して暮らせる生活環境の整備と、町内の土地建物を管理する仕組みづくりを行います。
- 緑豊かな自然を取り戻し、心のゆとりにつなげる“自然環境の回復”を行います。

重点施策に基づく主な取組み

ふるさと富岡との心のつながりの推進／生活環境の整備と町内の土地建物管理の支援／自然環境の回復

政策2 インフラ復旧・拠点整備(16事業)

取組み方針

- 帰還困難区域全域の再生に取り組みます。
- 幹線道路の整備や公共交通機関の利便性向上により町内生活環境の向上を図ります。
- 震災や風水害の教訓をいかし、平時より災害に備え、町民生活に安心を与えるまちづくりに取り組みます。

重点施策に基づく主な取組み

住民のための生活拠点の整備・拡充／広域的な道路・交通基盤の整備／災害に備えたまちづくり

政策3 産業再生・創出(11事業)

取組み方針

- 営農再開とともに、帰還困難区域内の農地保全を行います。
- 「福島イノベーション・コースト構想」による地域活性化や雇用促進を図ります。
- 富岡川サケやな場及びふ化施設の再生や、富岡漁港共同利用施設等の活用により、水産物の安定供給を図ります。

重点施策に基づく主な取組み

農業・農地再生に向けた取り組み／新たな活力と魅力あるまちづくり／水産業の産業に向けた取り組み

政策4 健康・福祉・教育(19事業)

取組み方針

- こどもと保護者が安心できる教育環境の整備を進めます。
- 町民が安心して生活できる環境づくりを進めます。
- 放射線が及ぼす健康影響や不安を解消するとともに、町民の健康づくりを推進します。
- 年齢や性別を問わず、誰もが居場所と役割を持ち活躍できる環境を目指します。

重点施策に基づく主な取組み

教育環境の整備／心身ともに健康で安心して生活ができる医療・福祉の充実／町民の放射線健康管理充実

政策5 新たなひとの流れの創出(16事業)

取組み方針

- 将来的に移住へとつながる交流・関係人口の創出・拡大を図ります。
- 新たに、町に住んでみたい方々を支援します。

重点施策に基づく主な取組み

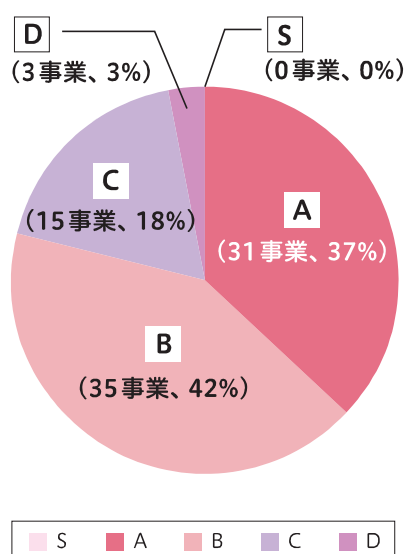
交流人口の創出・拡大／移住・定住の促進

▶ 結果概要

● 全事業における総合判定

	事業数	割合
S	0	0%
A	31	37%
B	35	42%
C	15	18%
D	3	3%
合計	84	100%

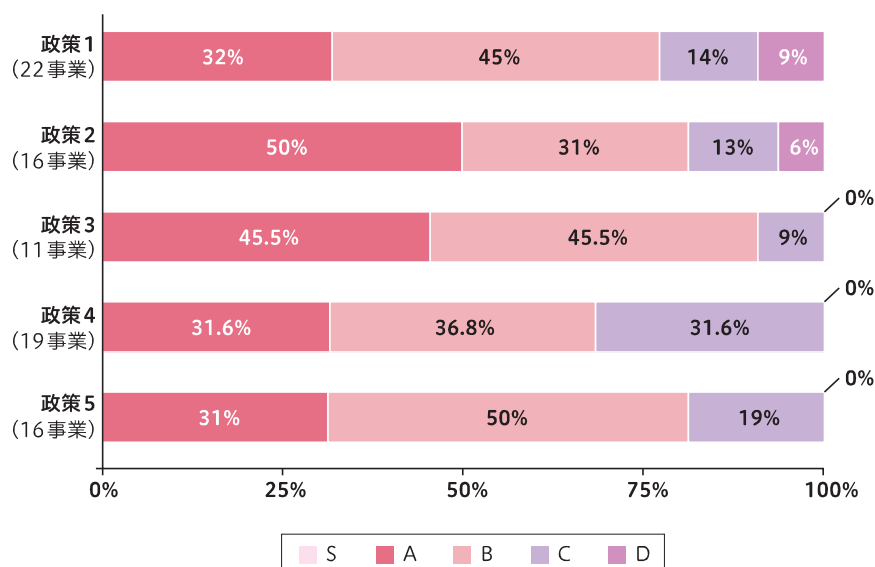
全事業の総合判定



● 政策別における総合判定

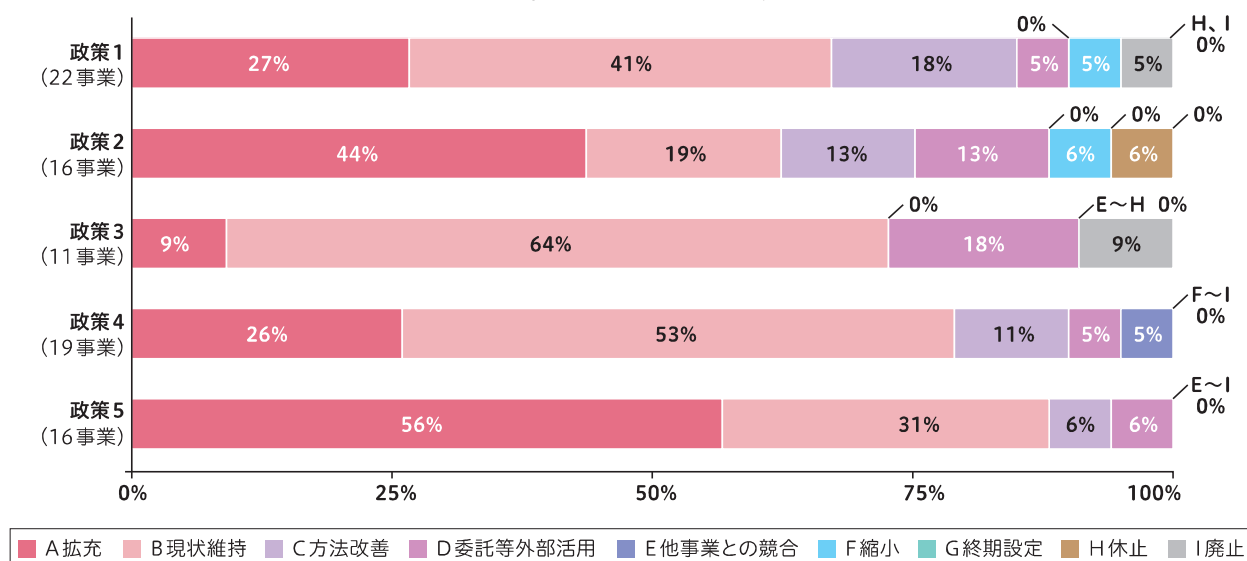
	政策1		政策2		政策3		政策4		政策5	
	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合
S	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%
A	7	32%	8	50%	5	45.5%	6	31.6%	5	31%
B	10	45%	5	31%	5	45.5%	7	36.8%	8	50%
C	3	14%	2	13%	1	9%	6	31.6%	3	19%
D	2	9%	1	6%	0	0%	0	0%	0	0%
合計	22	100%	16	100%	11	100%	19	100%	16	100%

政策別での総合判定



S 計画以上に進捗した。予定以上の取組成果が得られた。 **A** 計画どおりに進捗した。予定した取組成果が得られた。
B 概ね計画どおりに進捗した。一定の取組成果が得られた。 **C** 進捗にやや遅れがみられた。あまり取組成果が得られなかった。
D 進捗に大きな遅れがみられた。ほとんど取組成果が得られなかった。

第三次計画の方向性



小数点第1位を四捨五入して算出しているため、割合の合計が100%にならない場合がある。

政策 1 町とつながり続ける環境の充実

- ふるさと富岡との心のつながりの推進に関しては、桜関連事業は桜カルテ(GIS)を作成し、一部で桜の植樹が行われた。今後、庁内各課連携の下、保全事業やイベント等の実施を含め、一体的かつ計画的な桜の維持管理を行っていく必要がある。避難者支援は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴いその活動は一部に留まり、相談会や交流会等への参加者は減少しているものの、一定程度のニーズがあるため、町民ニーズや社会情勢を反映させた内容への見直しが課題である。
- 生活環境の整備と町内の土地建物管理の支援に関しては、町営住宅の整備は一定の成果を上げたものの、今後、町民のニーズを踏まえながらさらなる整備も検討する。町内の土地建物管理の支援は、遠方での生活を継続せざるを得ない町民の資産管理をどのように進めていくかが課題である。防犯・防火対策は、特定復興再生拠点区域の避難指示解除に伴いパトロール等の強化を図る必要がある。また、自主防災組織は設立には至っておらず、担い手の確保が課題である。
- 自然環境の回復に関しては、森林除染、特に里山除染の実施を引き続き国に求める。さらに、町民や町内事業者等による街なかや海岸等における清掃活動の継続実施が必要である。

政策 2 インフラ復旧・拠点整備

- 町民のための生活拠点の充実・拡充に関しては、インフラ整備は概ね完了した。今後は継続的な維持管理を行うとともに、帰還困難区域内の復旧を進めていく必要がある。夜の森公園は整備完了、夜の森つつみ公園は整備実施中であるが、今後は町民の利活用状況を踏まえ維持管理等を行っていく必要があり、公園を活用したまちづくりも課題である。
- 広域的な道路・交通基盤の整備に関しては、路線バスの利用者数は486人/年となり、令和4(2022)年度計画値の8割を達成した。特定復興再生拠点区域の避難指示解除に伴う帰還・移住等を促進するため、J R常磐線と路線バスの接続等によるさらなる利便性向上が課題である。また、民間事業者の参入も見据え、低炭素や脱炭素によるモビリティの導入可能性についても検討する必要がある。
- 防災に備えたまちづくりに関しては、各種事業は計画どおりに進んでいるが、今後は近年頻発化する災害に備え、教育機関や福祉機関との連携による幅広い世代に対する防災意識の向上等のソフト事業について強化していく必要がある。

政策 3 産業再生・創出

- 農業・農地再生に向けた取り組みに関しては、施設整備は計画どおり完了予定である。今後は担い手の確保や就農支援はもとより、施設を活用した営農再開や施設の運営管理、さらには生產品の販路確保や拡大を図り産地化に向けた事業展開の検討が課題である。
- 新たな活力と魅力あるまちづくりに関しては、産業分野は産業団地への企業誘致が90%となり目標値を上回った。起業/創業は、事業再開支援補助金のさらなる利用促進に係る創業・事業展開支援補助金制度について、県内外への周知を行った。今後は事業の再開や誘致等に向け、関係機関との連携による情報の周知を強化していく必要がある。
- 水産業再生に向けた取り組みに関しては、サケやなまこ・ふ化施設の施設整備が完了したため、今後は後継者育成、適切な維持管理が課題である。また、富岡漁港は、漁港背後地の活用に向けて県や漁協等と連携しながら進めていく必要がある。

政策 4 健康・福祉・教育

- 教育環境の整備に関しては、令和3(2021)年度に開館した「地域交流館」の利用者数は概ね計画通り(約23,000人/年)であった。町外からの利用者も多く、さらなる利活用促進に向けて魅力的な事業展開が課題である。放課後児童クラブは令和6(2024)年春の開所に向け整備中であるため、今後は運営の工夫や事業者の確保が課題である。
- 心身ともに健康で安心して生活できる医療・福祉の充実に関しては、眼科や歯科は令和2(2020)、令和3(2021)年度にそれぞれ町内で再開したものの、令和4(2022)年時点で調剤薬局の再開には至っていない。
- 特定復興再生拠点区域の避難指示解除に伴う帰還者や移住者の受入れのために、町民ニーズを踏まえ、診療科の増設や調剤薬局の再開は依然として課題となっている。「トータルサポートセンター」は計画を上回る来訪者数(約13,000人/年)であったが、さらなる利用促進に向け施設の周知や魅力的な事業展開が必要である。健康診断の目標回数は達成したものの、帰還した町民の健康づくりを推進する観点から、未受診者への受診促進や、給食施設の整備を踏まえた食育等による健康維持増進が課題である。また、健康増進施設の整備は、民間の資金力や技術力を最大限活用しながら、買い物環境と町民の交流の機能を踏まえて検討を進める必要がある。
- 町民の放射線健康管理の充実に関しては、年々利用者が固定化する傾向はあるものの、放射線の健康影響への不安軽減や正しい知識を広めるため継続的に実施する必要がある。
- 誰もが活躍できる地域社会の実現に関しては、スポーツセンター利用者数(約27,000人/年)や図書館利用者数(約18,000人/年)は概ね良好であり、利用促進に向けて町内外の関係機関・団体等との連携も含めた、より活発で魅力的な事業展開が課題である。

政策 5 新たなひとの流れの創出

- 交流・関係人口の創出拡大に関しては、インターンシップの受入れ件数は計画以上であったが、継続的な町との関わり合いを創出していくため、各種ツーリズムを含め、魅力的なコンテンツ開発を行うとともに、参加者との継続的な関わりやフォローアップを実施していく必要がある。また、情報発信として、町HPへの記事の掲載や動画の作成を行い、町HPアクセス数(約36万プレビュー/年)は計画以上となった。今後は、ユーザー視点で、見やすさ・分かりやすさの点で見直しと内容の充実化を図る必要がある。
- 移住・定住の促進に関しては、移住相談者数やお試し住宅利用者数、相談会の参加者数等における数値目標は達成しているものの、移住そして定住へと結び付けていくには新規転入世帯等へのヒアリングを通して町に移住した理由を分析し、確実に移住・定住につなげる・結びつける魅力的な事業展開が課題である。

第三次計画に向けたキーワード、視点など

- 地域資源(海、桜)の維持管理・活用によるまちづくり
- 自助・共助・公助による町の安全性・防災の向上
- 産業の復活、新たな産業の確立、起業／創業支援
- 公共施設の活用による教育・健康・スポーツの推進
- 福島イノベ構想やF-REIとの連携
- 継続的な避難者支援
- 子育て・教育環境のより一層の充実
- 交流人口・関係人口の拡大
- 移住・定住につなげるための仕組みづくり

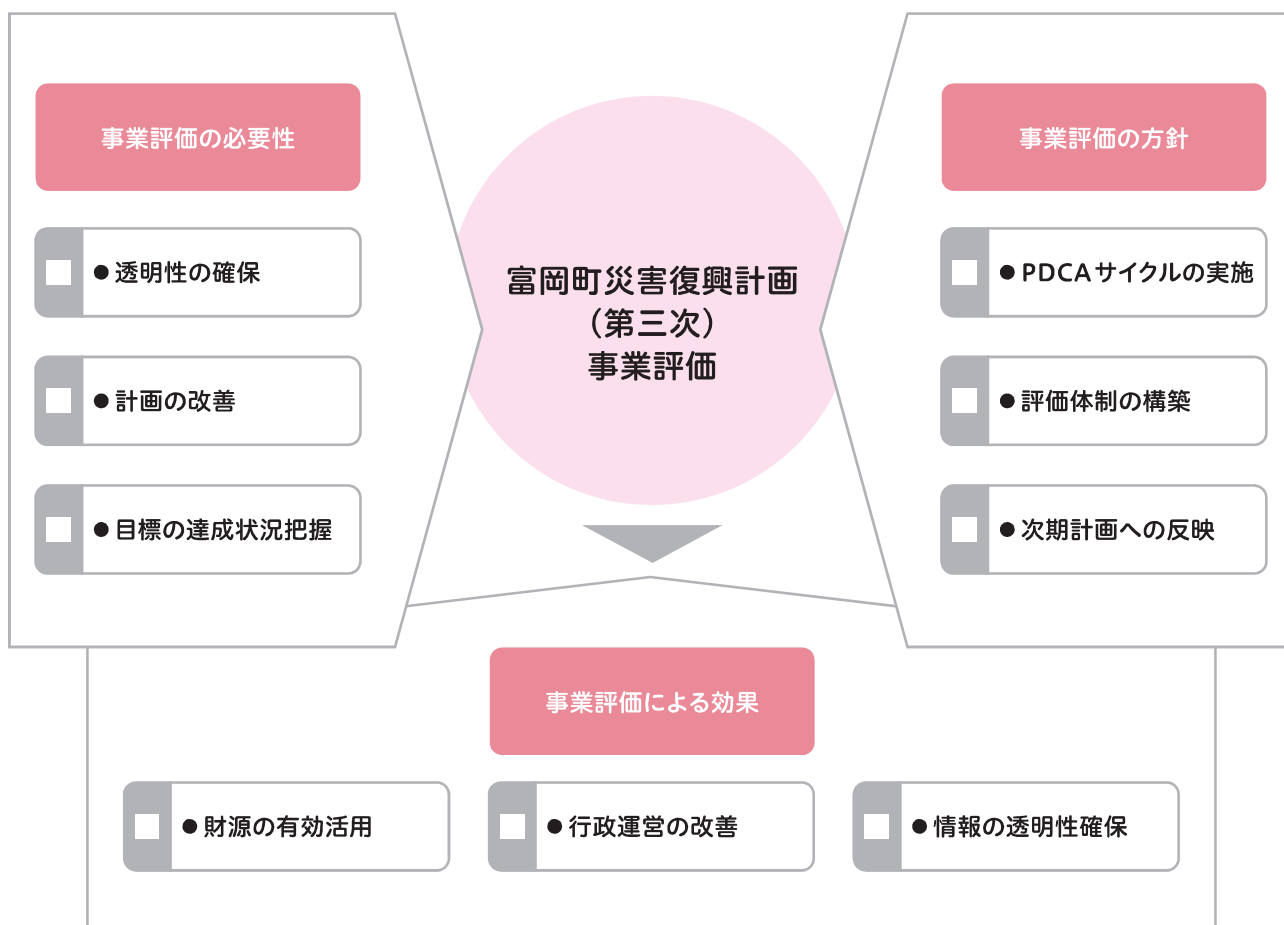
5 事業評価手法について

- 本計画は、本町の復興と創生に向けた基本計画として、町民の皆さまとの協働により策定しました。計画の実行性を確保するため、進捗状況を定期的に評価し、必要に応じて軌道修正を行うための評価手法と具体的なスケジュールを示します。

背景

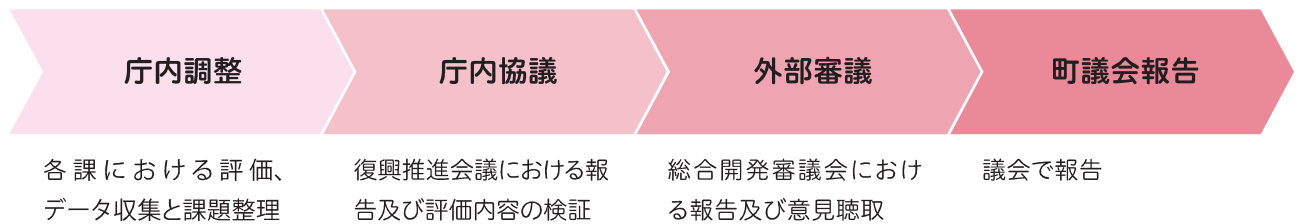
- 長期総合計画である本計画は、町政運営の羅針盤として多くの政策・施策を包含するつくりとなっていることから、成果や進捗が見えづらいことがあります。そのため計画の進捗状況を定期的に評価し、各年度の事業計画や翌期の計画に反映・適切に見直しを実施する必要性があります。
- なお、評価結果については、広報紙やウェブサイト、町政懇談会等の場を通じて町民の皆さまへご説明し、情報の透明性を確保するとともに、町政に対する理解と信頼を深めることを目指します。

事業評価の必要性と背景



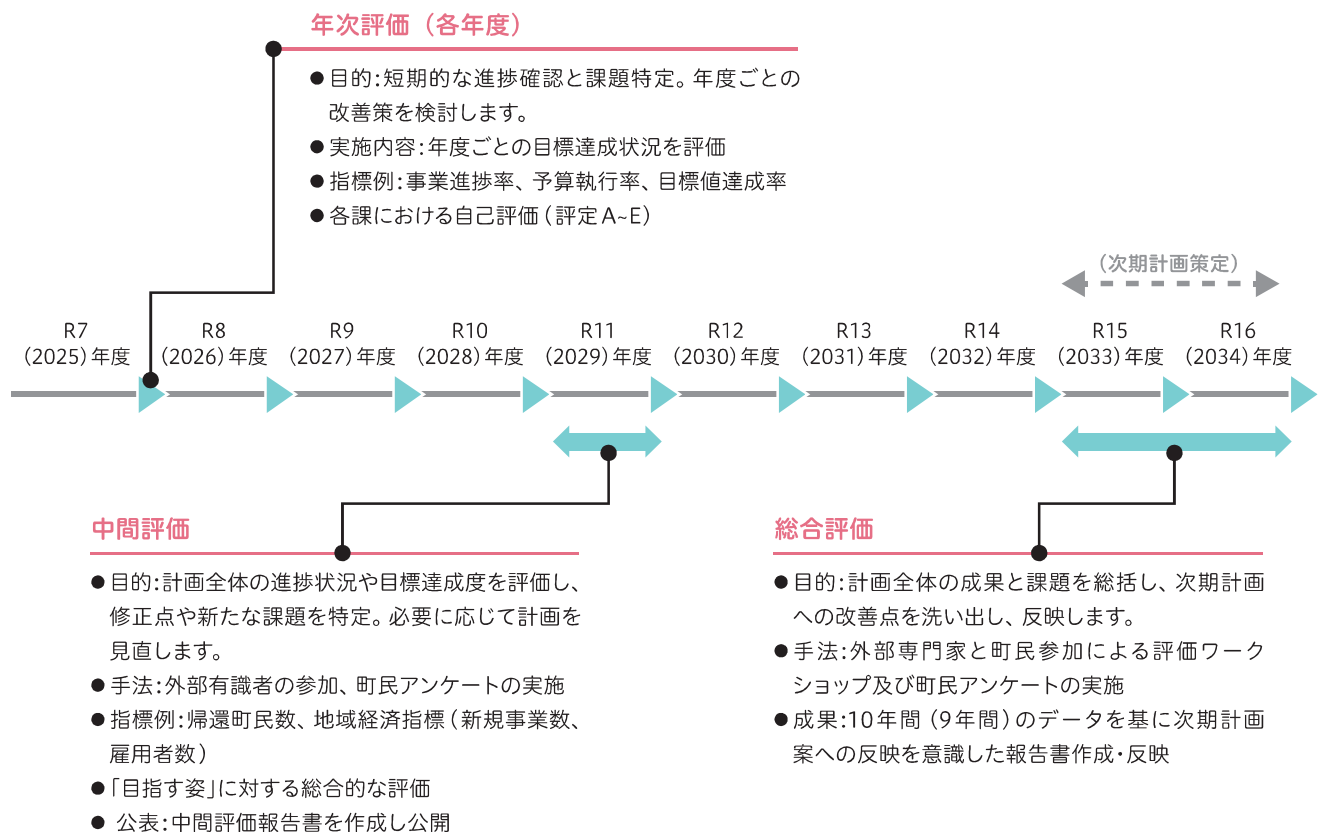
年次評価の進め方

- 年次評価は、下図に示すとおり、各課における評価(庁内調整)、復興推進会議、総合開発審議会等での報告・意見聴取を経て、町議会にて報告を行います。



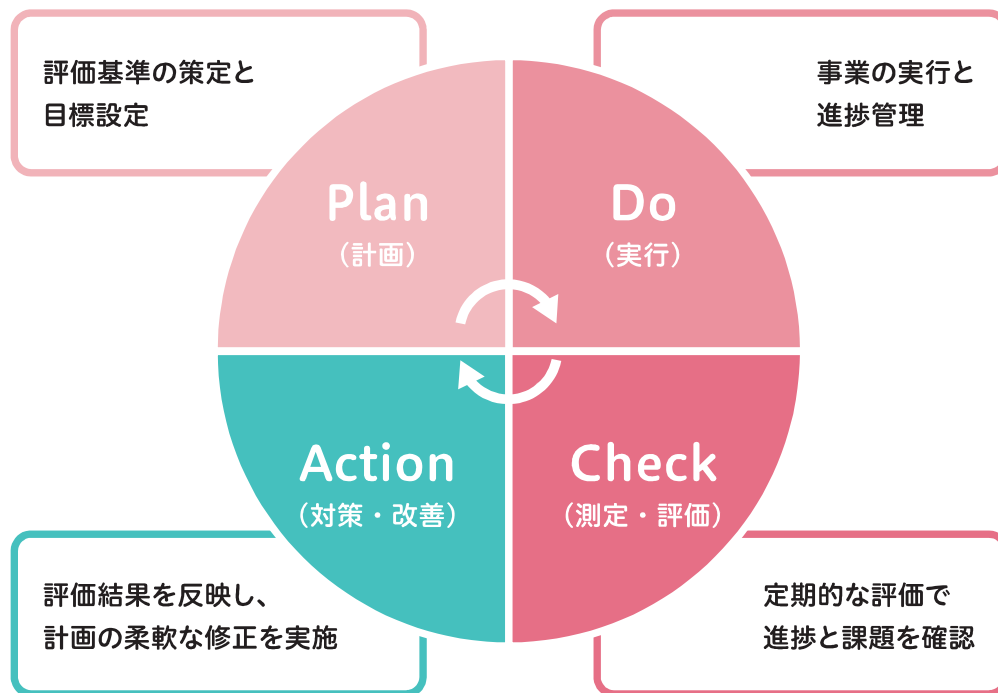
事業評価のスケジュール

- 事業評価は、年次評価、5年目の中間評価、9-10年目の総合評価に分けられます。年次評価においては、短期的な進捗確認と課題を特定し、年度ごとの改善策を検討します。
- 中間評価では、計画全体の進捗状況や目標達成度を評価し、修正点や新たな課題を特定、必要に応じて計画の見直しを実施します。総合評価では、計画全体の成果と課題を総括し、次期計画への改善点を洗い出し、反映していきます。



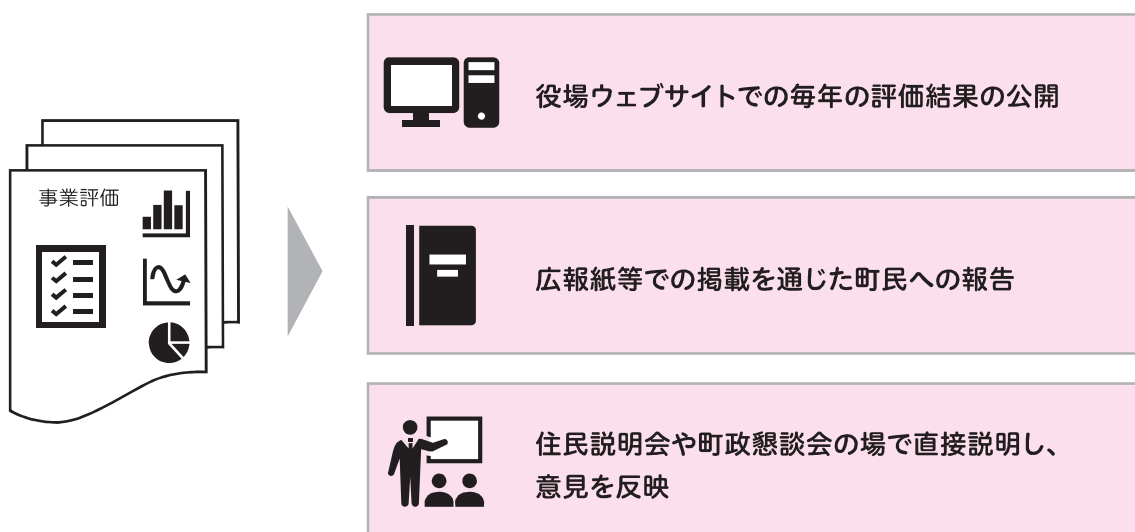
PDCAサイクルの活用

- 事業評価においては、PLAN(計画)、DO(実施)、CHECK(評価)、ACTION(改善)の4つの視点を評価手順の中に取り込むことで、継続的な改善を推進します。



評価結果の公表と活用

- 計画の評価結果については、広報紙やウェブサイト、町政懇談会等の場を通じて町民の皆さまへ説明を行います。評価は計画達成の要となる工程であることから、透明性を高め、町民と協働で計画を進行することで、次期計画の策定に向けた基盤を確立します。



6 用語解説

用 語	説 明
あ 行	
IoT技術	「モノ」と「インターネット」をつなぐことにより、生活やあらゆる産業の効率性と利便性を高められる仕組みのこと。
ICT	Information and Communication Technology の 略。情 報 (information) や通信 (communication) に関する技術の総称。日本では同様の言葉としてIT (Information Technology: 情報技術) の方が普及していたが、国際的にはICTがよく用いられ、近年日本でも定着しつつある。
アイデンティティ	自分が「自分らしい」と感じることや、自分が何者なのかを認識すること。
アクセシビリティ	障がいを持っている方も他の人と同じように物理的環境、輸送機関、情報通信及びその他の施設・サービスを利用できることをいう。
アクセラレータープログラム	スタートアップや一般企業内の新規事業部門に対して、アクセラレーター (大企業や自治体) が支援することで共創や協業を目指すための仕組みのこと。
イノベーション・コースト構想	複合災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するため、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクト。本構想は、重点分野に位置付けられる廃炉、ロボット・ドローン、エネルギー・環境・リサイクル、農林水産業、医療関連、航空宇宙の各分野の具体化を進めるとともに、その実現に向けた産業集積や人材育成、交流人口の拡大、情報発信、生活環境の整備など多岐にわたる基盤整備に取り組んでいる。
インフラ	「Infrastructure」を「インフラストラクチャー」とカタカナ化し、さらにそれを略した言葉で、道路、水道、電気、通信などが含まれ、地域の暮らしを支える基盤のこと。
AI	「Artificial Intelligence (人工知能)」の略。推論・判断等の知的な機能を備えたコンピュータシステム。
SNS	「Social Networking Service (ソーシャル・ネットワーキング・サービス)」の略。人と人をつなげるコミュニティ型ウェブサイトのこと。
SDGs	Sustainable Development Goalsの略称。「誰一人取り残さない」持続可能でより良い社会の実現をめざす世界共通の目標のこと。2015年の国連サミットにおいてすべての加盟国が同意した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の中で掲げられ、2030年を達成年限とし、17のゴールと169のターゲットから構成されている。
F-REI	福島国際研究教育機構 (Fukushima Institute for Research, Education and Innovation) の略称。福島をはじめ東北の復興を実現するとともに、日本の科学技術力・産業競争力の強化に貢献する、世界に冠たる「創造的復興」の中核拠点として、国が設立した法人 (令和5(2023)年4月設立)。福島イノベーション・コースト構想の取り組みにより整備された拠点間の連携等を促進するなど、構想をさらに発展させるもの。
LGBTQ	LGBTは、レズビアン【L】、ゲイ【G】、バイセクシャル【B】、トランスジェンダー【T】の頭文字を取った言葉で、性的少数者の総称として用いられることがある。LGBTに【Q】をつけて表記することもあり、【Q】は、LGBTを含む性的少数者を広く表現する「Queer (クィア)」と、性自認や性的指向について迷っている人・あえて決めていない人などをいう「Questioning (クエスチョニング)」の頭文字を表している。

用 語	説 明
あ 行	
オープンイノベーション	自社の技術や知見と外部の資源を結合させて、革新的な商品・サービスや新規事業を創出する取り組み。
か 行	
GIGAスクール	令和元(2019)年に開始された、全国の児童・生徒1人に1台のコンピュータと高速ネットワークを整備する文部科学省の取り組み。
グリーンイノベーション	社会の持続的な発展を目指して、あらゆる科学技術や技術を用いて変革をうみ、世界的な課題である環境問題に対する取り組みのこと。
グリーンインフラ	自然環境がもつ機能を活用して、都市の居住環境を向上したり、防災・減災力を高めたりしていこうとする新たなインフラ整備の考え方。
コーディネーター / コーディネート	物事が円滑に行われるように、全体の調整や進行を担当する人/こと。
コンテンツ	人々に伝えたり楽しんでもらったりするための情報や内容のこと。
さ 行	
サテライトオフィス	企業の本社や本拠から離れた場所に設置された小規模な業務拠点。
シティプロモーション	地域の魅力を内外に発信してイメージを高め、地域経済や住民協働を促進する活動のこと。
情報リテラシー	情報を正しく読み取り、目的に合わせて正しく活用する力。
スタートアップ	革新的なビジネスモデルによって社会に変革(イノベーション)をもたらす企業のこと。
スマートシティ	ICT(情報通信技術)を活用して都市や地域の抱える課題を解決し、新たな価値の創出を目指す都市のこと。
スマート農業	最新の情報通信技術を活用して、効率的かつ持続可能な農業を実現する取り組み。
た 行	
ダイバーシティ	「多様性」を意味し、さまざまな人々や要素のバリエーションや相違点を指す。具体的には、人種、性別、年齢、国籍、宗教、学歴、職歴、性自認、趣味嗜好などの要素が含まれる。
地域包括ケアシステム	地域の保健、医療及び福祉の関係者が連携・協力して、医療・介護・予防・生活支援・住まいについて、住民のニーズに応じた一体的なサービスを行う仕組み。
ツーリズム	何かテーマを持った観光や旅行のこと。

用 語	説 明
D X	デジタルトランスフォーメーション(digital transformation)の略。デジタル技術の活用による新たな商品・サービスの提供、新たなビジネスモデルの開発を通して、社会制度や組織文化なども変革・変容させていくような取り組みを指す概念。
データヘルス計画	健康保険組合や自治体が、健康診断や医療のデータを活用して、住民や加入者の健康を守るための取り組みを計画・実施するための事業計画。
デジタルインフラ	組織や企業のデジタル化活動を支えるために必要な基盤となる設備と技術のシステムのこと。
は 行	
パートナーシップ制度	同性同士の婚姻が法的に認められていない日本で、自治体が独自にLGBTQカップルに対して「結婚に相当する関係」とする証明書を発行し、様々なサービスや社会的配慮を受けやすくする制度。
ハラスメント	嫌がらせやいじめを意味する言葉で、パワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント、マタニティ・ハラスメント、ケア・ハラスメントなどがある。
バリアフリー	「障壁の除去」という意味。社会生活を送る上で高齢者や障がい者にとって障壁となるものを取り除くことを指す。
P R	パブリックリレーションズ(Public Relations)の略。官庁、団体、企業などが社会と良好な関係を築くための情報発信や広報活動のこと。
フェーズ	「段階」や「区切り」、また「局面」という意味。
フォローアップ	物事がうまく進むように追加で対応や支援を行うこと。
プラットフォーム	特定の機能やサービスを提供する基盤のこと。一般的に、ユーザー同士が交流したり、情報や商品をやり取りしたりする場を提供するもの。
プロモーション	消費者に商品やサービスを認知してもらう活動全般。
ホープツーリズム	福島県が推進する複合災害の教訓等から「持続可能な社会・地域づくりを探究・創造する」福島オンリーワンの新しい教育旅行。
ま 行	
マイノリティ	ある集団のなかで少数派となる人々のこと。
メンタルヘルス	心の健康状態のこと。

用 語	説 明
ま 行	
モビリティ	人や物が移動すること、または移動を支える技術や手段(車、電車、シェアサービスなど)を指す。
や 行	
U・Iターン	以下の頭文字をとった言葉。 ・Uターンとは、出身地から進学や就職のため転出した後、出身地に戻ることに。 ・Iターンとは、出身地にかかわらず、住みたい地域を選び移り住むこと。
ユニバーサルデザイン	年齢や障がいの有無などにかかわらず、できるだけ多くの人が利用できるようにデザインすること。
ら 行	
リスクコミュニケーション	リスク分析の全過程において、リスク評価者、リスク管理者、消費者、事業者、研究者、その他の関係者の間で、情報および意見を相互に交換すること。
わ 行	
ワークシェアリング	一つの仕事を複数の人で分担し、労働時間を調整することで雇用を維持する仕組み。
ワークライフマネジメント	仕事 (Work) と私生活 (Life) を適切に管理することで、どちらも充実させていくという考え方。
ワーケーション	Work(仕事)とVacation(休暇)を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し、リゾート地や温泉地、国立公園等、普段の職場とは異なる場所で余暇を楽しみつつ、仕事を行うもの。休暇主体と仕事主体の2つのパターンがある。

町章



富岡町の富(ト・3つ)を図案化したもので、協力と融和を表し、円は平和と無限に発展するエネルギーを象徴したものです。

町の木



さくら

明治33年、夜の森が開拓された際に植えられた桜が今では町のシンボルとなりました。毎年開花と同時に見物客でにぎわいます。

町の花



つつじ

全国花いっぱい「花と緑の駅」コンクールで日本一に輝いたJR常磐線夜ノ森駅のつつじは、旅人に親しまれていました。

町の鳥



セキレイ

水辺に生息するセキレイは、富岡川の清らかな流れにチチチッと爽やかなさえずりで人々の心を和ませます。

富岡町民憲章（昭和59年7月1日 制定）

わたくしたちは、太平洋の潮騒と阿武隈のみどりに包まれた富岡町の町民です。

わたくしたちは、未来をみつめ、郷土の発展を目指す町民の道しるべとして、ここに憲章を定めます。

1 花と緑のあふれる町をつくりましょう

1 子供をみつめ、伸びゆく力を育てましょう

1 進んで学び、希望に満ちた町をつくりましょう

1 楽しく働き、活力のある町をつくりましょう

1 互いに思いやり、うるおいのある町をつくりましょう

1 きまりを守り、住みよい町をつくりましょう

富岡町マスコットキャラクター とみっぴー



10月3日PM、大倉山生まれ。セキレイの妖精。夢は「富岡町に再び灯りと人々のつながりを取り戻すこと。」。平成27(2015)年に、世代を問わず愛されるユニークなキャラクターを公募し、町の鳥・セキレイをモチーフに、頭には町の木・さくらの花びらを飾り、町の幸せ(はっぴー)を願う思いを込めて「とみっぴー」が誕生しました。

友好都市

埼玉県北葛飾郡
杉戸町



姉妹都市

ニュージーランド
ワントリーヒル市
(オークランド)



友好交流都市

中国浙江省
海塩県





福島県
富岡町



咲き競う花々 花と緑あふれる町

発行日 令和7(2025)年3月

